

市民自治討論会

第2部の討論会では、市民自治推進委員会副会長の木村義恭さんをコーディネーターに、6人のパネリストを迎え、アドバイザーとして引き続き片山健也さんに加わっていただきました。討論形式はパネリストを参加者が取り囲んだのフィッシュボウル形式で、4つの柱をテーマに討論が行われました。ここでは、その内容の一部を紹介します。

パネルディスカッションでの柱

- ① まちづくりにおける市民の責任と役割は？
- ② 市民自治推進委員会が活動を展開しているが、市民の参加が広がらないのはなぜか。他団体・協議会・委員会との協働は？
- ③ 行政・議会・市民の協働をどのように進めていけば良いか。また、課題となっていることは何か。
- ④ どんなまちになってほしいか？ そのために取り組むべきこと。

外部の助言を得ることで
議論に広がりが生まれる



市議会議員
まつやま 哲男 さん

まちづくりにおける市民の責任と役割については、市の最高規範であるまちづくり基本条例の理念を柱にしなければならぬと思います。

市民自治推進委員会の活動は、市民が関心のあるテーマを各部会が設定し、自治推進委員だけで議論するのではなく、その分野の研究者など、外部の助言を得ることで議論に広がりが生まれると考えます。

議会も議員の知識だけでは対応できないことがありますので、専門的知見を持つている市民が議会活動、議員活動をサポートする制度を取り入れることで、市民と議会の協働が

可能かと思えます。

幅広く市民の意見を聞く
畑を作ることが必要



ほろべつ活性化
推進会議会長
なかがわ 弘誓 さん

情報の発信の仕方を工夫し、市民にとつて協力しやすい環境をつくらなければならないと思います。市民の参加はなかなか広がらないと思います。

まちづくりというのは、公益の社団法人だと思えます。市民は社団法人登別市の会員として税金という会費を納めているからです。社団法人にはテーマごとの委員会があります。市民も全員が何かの委員会に入り、意見を発言する機会を持つことが必要です。まずは幅広く市民の意見を聞くという畑を作る必要があると思えます。

真剣にまちづくりに向き合い
積み上げていくことが大切



市民自治推進委員会
第1部会部会長
うへだ 美津子 さん

市民自治推進委員会は成熟していません。今、本当に頑張っている最中です。欠点もあり、ご指摘、ご批判もあると思います。

以前、自治推進委員会の会議である委員がこのまちにはオピニオンリーダーがいらないと言っていました。オピニオンリーダーがいらないからこそ、わたしのような普通の市民でもまちづくりに関わり、意見を述べることでできます。考える、学ぶチャンスが市民にはあるわけですから、真剣にまちづくりに向き合って誠実に日々の営みの中から小さなものを積み上げていく。このことが社会を

変える原点だと思えます。

高齢者の方ももつとまちづくりに
関わってもらいたい



市民自治推進委員会
第5部会部会長
わだ 浩一 さん

住んでいる人が何を求めて暮らすかというところに責任と役割が出てくるのではないかと思います。

住んでいて良かったと思ひ、このまちを愛し、心の充実や人と人との関わり、何かに対して目標を持つ意思、生きがいなどに対して、もっと思いを大切にしてまちづくりに取り組んでいければ良いと思います。

昨今、高齢者がどんどん多くなっています。これからのまちづくりには、その高齢者の方も活動の差はあっても関わっていただきたいと思えます。